

第 10 号

発行

小松同窓会本部

〒923 小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

編集人 宮崎 榮

印刷 北膳印刷株式会社



小松同窓会会報

新しい事はやがて

古い事である。

古い事はやがて

新しい事である。

(寺田寅彦)

## 恩師中谷吉郎先生 の思い出

金沢大学名誉教授

田中久一郎

物理学者中谷吉郎先生(一九〇〇—一九六二)の雪や氷の研究の経過や成果を展示する「中谷吉郎雪の科学館」を出身地の加賀市が設立し、昨年十一月に開館となった。科学館の概要は本会報九号に紹介されているので、ご承知の方も多いであろう。先生は、昭和五年新設の北大理学部に赴任され、まもなく、降ってくる雪の結晶を調べる研究を開始し、形状分類を完成された。ついで低温室内におかれた実験装置において、天然雪で見られたすべての結晶形の、人工雪を作成することに世界で初めて成功し、それらの形が出来る条件を解明された。かくして、降ってくる雪の結晶形を見れば、それが発生し成長してくる上空の気象条件がわかることになるので、先生は「雪は天から送られた手紙である」と言われた。先生の人工雪を、ゲレンデに降らす人工雪と思っていた学生もいたので、注意が必要である。先生は「冬の華」など秀れた多くの随筆の筆者としても知られている。

さて、私は昭和十八年に小松中学を卒業して専門学校に入学したが、先生の著書を読んで北大物理に進学したいと思っ

た。そこで、専門学校からでも入試を受ける。

た。そこで、専門学校からでも入試を受ける。先生に申し出た。二十年の戦時中のことである。往復はがきにしたのは、専門学校の教授から、必ず返事を貰えるであろうと知恵をつけられたからであるが、随分失礼なことをしたものである。しかし、先生から親切なご返事を頂いた。入試のとき、小松を出て四日目に札幌に着き、教授室に伺ったとき「よく来たね」と言われたのが先生から聞いた最初のこゝとばである。中学の後輩が戦後の混乱期にはるばるやって来たのをほめて貰ったようで嬉しかった。

三年生になって、希望する研究室に所属して研究することになった。私ら四名が中谷教室にいたが、先生と直接に話をしたくても、お忙しいのでその機会が無い。そこで四人そろって教授室に伺い、ゼミナールをやってほしいと申し入れたところ、都合のよい夜に先生宅に集まって、先生の恩師寺田寅彦先生の英文論文集を勉強することになった。第一回のゼミでは、先生が「この論文集は岩波のおやじが寅彦全集などでもうけさせて貰ったので特別に安い値段になったんだよ」と解説されたり、私が担当した論文のときは「寺田先生の頭のよさを示している論文だ」などと言われたり、先生独特の解説が長く、また奥様がスイカをお出しになると、雑談会になってしまい、ゼミとしてはあまり進まなかったが楽しいものであり、親切だった先生が想い出され

る。

二十四年の卒業をひかえて、新制大学となる金沢大学に行きたいと申し出ると、「金沢に行ったら君は駄目になるよ」と申され、「理研の仁科研究室で集魚灯や海中光学をやっている佐々木君(北大物理卒)が一人ほしいと言っているんだ」とのお話で、仁科研の助手にして頂いた。研究に未熟な私を、安心できる理研に入れた方がよいとの親心であった。理研での研究生生活は私の一生を決めたともいえ、大変なご恩を受けたものである。

二十七年におやじが急死して帰郷し、小松製作所や県立小松城南高校(定時制)などを経て、三十一年に金沢大学機械工学科の助手として漸く研究生生活に戻ることができたが、研究費が無くて往生していた。その頃、上京して原宿の先生宅に伺ったとき「住友ベークライトに行こう」と申され、電車で新橋まで行き、本社の技術部長らに紹介され、それから二十年以上も援助して頂くことになった。その時「この男は面白いことをやっているのだ……」などとほめて下さった。私の学位の仕事も、北大物理の先生方に話されていたそうである。これらは私のための絶大な援護で、他のお弟子さんにも用いられた方法だと思ふ。先生の親切は、心からの思いやりによると痛感している。以上に先生の思い出の一部を述べたが、先生の人の一端を汲みとって頂ければ幸いである。

(中学40回)

# 阪神大震災報告と

## 義援金のお礼

関西小松同窓会会長 丸次 英治

この度は阪神大震災に際し仲井会長、清水校長先生はじめ同窓会本部の皆様方に大変なご心配をお掛けし、その上多額の義援金まで頂戴致しまして本当に有り難うございました。関西同窓会会員一同心から感謝致しております。

私は大阪府の中でも京都に近い枚方ひらかたに住んでおります。平成七年一月十七日午前五時四十六分、物凄い振動に目が覚め妻と二人、無我夢中で部屋を飛び出しました。二階に寝ていた子供達も階段の上で降りることも出来ず立ち竦んでいきます。そのまま術もなく一分数十秒間、家は鉛細工のようにぐにゃぐにゃに波打ちミシミシと音を立てて軋みまわりました。思い出しても恐ろしい地震でしたが、幸運にも我が家は花瓶一つ割れずに済みました。午前八時ごろ会社に向かって車を運転している

と、突然ドーンと追突されたような衝撃を覚えました。急

停車し何事かと見れば、道路際に立ち並ぶ電信柱が酔っ払いのように揺れ、電線が波打っていました。衝撃の犯人は又しても地震だったのです。これが今回最大の余震でした。会社ではテレビに釘付けになりました。神戸方面に大被害、高速道路まで倒壊、火災発生等々、あの地獄絵図が繰り広げられたのです。

震災後、私達は幹事会を開き、本部より頂いた義援金の報告と、会員の安否の問い合わせをしました。被災地には大体三百名程度おられると思われませんが、最も心配された犠牲者は一人もなく胸を撫で下ろしました。また家屋の被害では完全崩壊は無いものの、半壊または部分的な被害、更には家具調度品の破損となると夥しい数の人々が被害に遭っておりまわす。その上、電気等のライフ・ラインと交通アクセスの途絶では大変な苦

労があったことと思えます。

総ての方々についてお伝えすることは出来ませんが、私がお聞きした少数の人達の消息をお知らせしたいと思います。誌面の都合で極一部の方々に限られることをお許し願いたいと思います。

◇鈴木忠夫氏(中学42回) 関西同窓会前会長。六甲アイランドにお住まい。電話する。信号鳴るも応答なし。不安。最近まで社長をしておられた松下精工秘書課に問い合わせ。箕面市に避難されたことを知る。そちらへ電話し、漸く「間一髪で助かりましたヨ」と元気なお声を聞きほっとしました。二月には神戸へ帰っておられます。

◇広田光嗣氏(中学46回) 往年の剛腕投手。神戸市はど真ん中の三宮に居住。電話がやるとつながら「家は相当やられたが避難する程でもない。」「何か要る物はないか?」に「ノー・サンキュー」で一安心。

◇西野外次氏(中学46回) 西宮は甲子園。激震だったが新築のお陰で無事。同居のお嫁さんが地震騒ぎで早産するというハプニング付き。

◇松田陸男氏(中学46回) 豊中市在住。外壁のひび割れ程度。

◇吉原暢雄氏(高校2回) 尼崎市。周りの家が軒並み壊れる中でビクともせず。石川県産地直送の木材使用とか。それでも本人は本棚と洋ダンスの下敷きになり命拾い。

◇竹島清隆氏(高校2回) 西宮市が本宅だが、折しも大阪市の家に住んでいて無事。本宅は屋根葺き替えなど被害甚大。実は前日の十六日に西宮の本宅へ戻す予定だったが引越遅れで危うくセーフ。

◇堀 弘二氏(高校4回) 宝塚。屋根の大修理が必要のこと。

◇萩下志朗氏(高校4回) 宝塚。家屋は無事だったが、商品に損害。

◇園井洋一氏(高校5回) 神戸市でも北区は被害少なく無事。

◇清水一與氏(高校7回) 神戸・ポートアイランド在住。地盤液状化のため一時、大阪市内のホテル住まい。  
◇宮崎一也氏(高校7回) 大阪市西淀川区居住。この辺り被害がかなり大きく、室内調度品が滅茶苦茶とのこと。  
◇松井他美子氏(高校8回) 小生の従妹で尼崎市在住。調度品などの被害大きく、新居

を求めて転宅。  
◇太田友明氏(高校9回) 尼崎市在住。松井女史と同じ理由で新しい家に引っ越し。以上で報告を終わります。被災地の復興は力強く進んでいます。今後とも皆様の温かいご声援をお願い致します。(中学46回)

小松同窓会では、去る1月27日に開かれた新年会の会場に募金箱を設置し、阪神大震災で被災された関西小松同窓会員の方々のための義援金の募金を行いました。

当日、新年会に出席された多数の方々のご協力を戴き、寄せられた義援金は、早速関西小松同窓会の丸次英治会長あてに送金いたしました。



マラソン大会

支部長就任にあたり

吉田 耕介

夏服に衣更えして気持ちまで軽やかに、本当に住みやすい今日この頃です。

同窓の皆さまには益々ご健勝で、それぞれのお立場での活躍の事、ご同慶の至りでございます。

このたび計らずも伝統ある金沢支部長の大役を、お引受けすることになりました。

大先輩の伊東支部長から指名されて「もう「古稀」を迎える年寄りの私など」と言いたかったのですが、大先輩の前では通じないことで渋々承知した次第です。

金沢支部では隔年に総会が開催されており、名簿では約千八百名(高校30回卒迄)の会員ですがお逢いする機会も少なく伊東支部長の発案で、趣味を通して「ミニニケーション」を図ってはということ、『白領句会』と『山野草の会』が発足いたしました。しかしお世話役がいらないとなかなか続かないもので、幸い「句会」はホトトギス・あらうみ同人の小竹由岐子さん(県女37回)を中心に約十五名の会員で、

もう十年になります。毎月一回の例会と年二回ほどの吟行を兼ねた旅行で、気兼ねのいない者同志でお茶とお菓子を頂きながら、小松弁丸出しで楽しいひとときを過ごしております。

皆様もご存知かと思いますが数年前亡くなられた恩師であり、中学の大先輩でもあった明石与作先生がご存命中、毎月一回ぶらりと私の会社へ遊びに来られ「ヨーさん、長生きしたかったら一人で遊ぶことを覚えよ」と言われるのが口癖で、最初は意味がわからなかったが、要するに自分が長生きすればする程、友人が一人減り二人減りするし、例えば麻雀だと四人、囲碁将棋は二人が必要で、麻雀の好きな先生からよくメンバーを揃えさせられた思い出があります。即ち、一人でも出来る楽しみを持った方が良いでしょう。協道にそれでしたが、同窓会は横のつながりも大切ですがそれ以上に先輩後輩の固い絆が大切かと思えます。長いこと幹事として裏方のお世話もさせて頂いたお蔭で、各期の幹事さん達の気心も知って

おり、引続きご協力を願えるようですので、伊東前支部長の敷設されたレールから外れないように、お互い連絡を密にし誠心誠意運営して行く所存でございます。

今後とも尚一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。(中学40回) 尚、金沢支部の今年の執行部は次のとおりです。

支部長 吉田耕介 (中学40回)

直前支部長 伊東清雄 (中学31回)

副支部長 木村郁子 (県女30回)

幹事長 中 修司 (高校7回)

会計幹事 上田邦子 (高校7回)

富山小松同窓会開催

去る平成七年四月十五日の花見どきに富山市の「海老亭本館」(村満智子様県女34回卒/経営者)で第三十四回富山小松同窓会が開催された。当日は中学・県女・市女・小松高出身の在富約二百名の内三十名参加。

牧野新一(中学37回卒)の司会にて、原谷敬吾会長(北

陸電力(兼相談役)のあいさつの後、来賓の仲井信雄会長より母校の改築問題や平成十一年の創立百周年記念行事の計画等を詳細にわたり説明され、祝辞を述べられた。

また、清水郁夫小松高校長から春の県議選で当選のOBの方のご活躍状況や当日会場で配られた「学校要覧」の内容説明と教職員一同懸命に取り組んでいる進学状況報告があり、その対策に先生方が母校の伝統の重みを感じ、情熱溢れる指導をされている旨を聞き一同感銘を受けました。

続いて、懇談では年長の濁岸政信氏(中学30回卒)の音頭にて乾杯し開宴した。

久しぶりの再会で親睦を深め、集い

が盛り上がり、賑やかな談笑の中で楽しい一夜を過ご

し、またの再会を誓い閉会しました。



お悔やみ

原谷敬吾富山小松同窓会長ご入室和枝殿(県女21回卒旧姓伊藤小松市出身)が去る五月十七日、心不全のため亡くなられました。七八歳でした。心よりご冥福をお祈りいたします。(中学37回 牧野記)

近況

二羽 弥

私達第27回生は、大正一四年四月に入学し、昭和五年三月に卒業した。入学者一五〇名であったが、不況のため中途退学を余儀なくされた者も多く、卒業したのは九五名であった。それが現在生存している者は二六名という寂しさである。創立九十周年記念当時の同窓会員名簿には生存者四五名、死亡者五〇名であったが、その後の六年間に一九名が死亡したわけである。平成七年度で最も若い年齢は八三歳になるので、高齢のせいか死亡の勢いが加速したようである。特に私の住む寺井町域では、入学したのが一八名であったが、現在生存しているのは三名で、その内二名は県外に、私一人が町内に残っ

ている状態である。

私は定年退職後、老後の生活を豊かにしたいと趣味の会に加入した。現在加入している会は書の会・愛陶会・愛園友の会・短歌の会・囲碁の会である。書の会は文化祭と書の会展に作品を、愛陶会は県外陶磁器産地の視察旅行や全国の焼物・著名窯・作家の作品研究と展覧会の見学などがある。愛園友の会は京都や近県・県内の名園視察や庭木・石造物の研究を行っており、短歌の会は月一回の互評会と合同歌集の発行を、囲碁の会には毎日曜日の練習会と年四回の大会がある。



母校で教育実習  
川崎創司郎君 (高校43回)

(中学27回)

### 先生の御恩

佐藤 洋

昨年四月、桜花を賞でつづ天守台に登った。家々が建ち並び梯川が見えないなど風景は変っていたが、遠い昔を想い出して胸迫るものがあった。大正十五年四月、入試に合格して制服制帽に真っ白なゲートルをつけて登校。中学のアンチャンになった時の心の高揚を忘れることができない。

あの頃の中学の数は今の大学より少なかった。同年令の中学生は三〇％に満たなかったのではないか。一年生、井上栄作先生の数学はキツかったが興味津々熱が入った。資格試験で教師になった篤学の先生だったが難問を一緒に解く楽しさがあった。この年大正は昭和に変わったが、多分昭和九年だったと思う、東京の私の下宿へ先生が来られ泊られた。何かまた試験を受けられるとのことだった。

二年生、夏の朝新聞に自殺した芥川龍之介が寝床に横たわっている写真が載っていて衝撃を受けた。当時わが中学に『松籟』という同人芸誌

があった。佐野保先生(早大英文)や漢野内記その他の上級生が活動し、またグループは武者小路実篤や菊池寛の戯曲をお寺の大広間を借りて演じたりしていた。われわれは少なからざる思想的影響を受けた。三年生、新任の山根邦夫先生(東大英文)に英語を教わった。白山町の先生の家に呼ばれて倉田百三『出家とその弟子』『愛と認識への出発』、ストウ夫人『アンクル・トムス・ケビン』などを貸し渡され人生や社会について開眼させられた。四年生、山根先生から四高文乙(ドイツ語)を受験するように勧められた。家業(農家向けの太物商)を継がせる心意だった私の父を説得して頂いた。昭和五年三月、入試の終わった後、小松町北部に大火事が起った。跡片づけに泥町の親戚の家に行き、真っ黒になって本折町へ帰宅しようとして猫橋のところまで来たとき、一年先輩の田中栄一さんが居て「おい佐藤、四高は合格していたぞ」と言われた。ドウツと疲れが出たのを覚えている。戦後山根先生は故郷の広島女

子短大の学長になられた。体調を崩され広島のお宅までお見舞に行った。昭和三十五年だったと思う。

私は剣道部に入っていて、放課後は練習に明け暮れた。夏の合宿と寒稽古もなつかしい。森原一二先生の親身のご指導を忘れることはできない。島田敬恕校長の次男欣二君が同級だったので、小馬出町の先生のお宅へ行ったことが何度かある。本当に立派な大先生だった。

中学時代ほど直接先生の警戒に接した時期はない。今でも本当に恵まれた中学時代だったと感謝している。(中学28回)

### みだれ書き

大江 健治

定年は人を遠くすむべの花あつという間に定年を迎え、『さてどうしようか』と迷っていた矢先にコピアの社長から北陸の小松に支店を設けたいが『是非貴方にやって欲しい』との強い要望があり、郷里で独り住居の老母が気懸りだったこともあり、この申入れを快く引受けることにした。喧噪の街東京から十三年振

りに小松へUターンして、山あり河あり海あり温泉ありの故里はいいもんだとホッと落ち着いた次第である。

それから小さな店舗を開いて二十一年、その間資金繰りに困り腹を痛めたこともあったが、今では取引先も安定しまあ〜の業績である。Uターンして 雪の降る町 住みつきぬ

私は経営の目標は利潤の追求もさることながら、むしろ顧客に喜んでもらえることに主眼をおいているつもりである。余暇には気の合った連中と麻雀を楽しみ、俳句を嗜みひねっている。俳句では私は枯淡・さび・寂寥の芭蕉より絵画的で明るい蕪村の句が好きである。春の海終日のたりのたり

枕する春の流れやみだれ髪 私の脳裡には春の流れの中に身をゆだねてゆらゆらと髪を乱して横たわる女人の姿が白くおぼろに浮かびあがってくる。『みだれ髪』が悩ましく妖しさが漂う句である。

『みだれ』では与謝野晶子の黒髪の千すじの髪のみだれ髪 かつおもみだれ

おもいみだるる  
こんな放恣な恋の歌に共感し、  
老いの血が騒ぐのは、人一倍  
好き者の性のせいだろうか。  
この歌には青春のロマンが旺  
溢している。

だんだんと老化してゆくの  
が自然の営み。あと幾ばくか  
の余生で遂には帰らぬ人とな  
らざるを得ない宿命、つまる  
ところどうしても老化は避け  
て通ることが出来ないのが世  
の常。

従って生き方としては、老  
いと同居し多少とも工夫をこ  
らし乍ら少しでも快適に老化  
とつき合っゆくしか妙手は  
ない。それが人間の知恵とい  
うものであろうか。

家族や周囲の人に迷惑をか  
けないで長生きすることは至  
難でむずかしいことである。  
そのためには心身ともに無理  
をしないよう心掛けることし  
かあるまい。

今日やることは明日にのび  
しても結構、義理を欠くこと  
があっても致し方がない。

凡てマイペースで日々を過  
ごし生きることが肝要である  
と達観している。

真宗王国の北国で生れ育っ  
た者として、もうそろそろ佛

門を叩いてもよい頃であるが、  
佛門にいままだ帰依せじ

石菰の花  
この句のようになか／＼機縁  
にめぐまれないまま傘寿を迎  
えようとしているが、これで  
よいのだろうか。

ラベンダーの花の香 親し  
去年今年

今もってラベンダーの花の  
香に酔い大正ロマンを追いつ  
きたいと願っているが果して  
これでよいのだろうか。そん  
な疑問を持ちながら傘寿の雪  
道を辿っている次第である。

雪の道  
傘寿の丘すぐそこに見ゆ

(中学31回)

尾を垂れた鯉職は見憎い

米澤 淑郎

又鯉職の季節になったが、  
子供が少ないのか、鯉職を揚  
げるのが面倒なのか、又鯉職  
そのものがないのか、近頃鯉  
職を見るのが非常に少ないよ  
うに思います。

紺と黒の色調の鯉職が腹一  
杯風を吸って大空を泳いでい  
る様はすばらしく美しいもの  
ですが、尾をだらりと垂れた  
まゝの鯉職はどうてい美しい  
とは思われません。

その鯉職に大人達は少しも  
風を送ろうともしないのが実  
状のようです。近頃の子供達  
に活力がなく、逆に非行に走  
る子が増え、学校では朝から  
欠伸をする子供が増えている  
と皆んなが言うが、そのさま  
は風のない日の尾をだらりと  
垂れた鯉職に似ているように  
思われてならない。

今から約六〇年前程を振り  
返ってみると中学校時代の少  
年期は人生の中でも特別にみ  
ずみずしい時期で大人になる  
単なる過渡期ではなく、独自  
のかけがえのない大切な時期  
であった。

その当時ガナ先生、坊ちゃ  
ん先生、ツッさん先生等々  
(失礼ですが懐しさの余り渾  
名で呼ばしてもらいます)は  
盛んに温味のある風を送って  
下され、腹一杯吸え、そうし  
て泳げと教えて下されたが、  
吸おうともしなかったのが今  
でも残念でならなく後悔もし、

諸先生の熱意の教えに叛いた  
ことを深く後悔している現在  
の自分自身に尾を垂れた鯉職  
を重ね見るときが時々ありま  
す。

何故このようなことになっ  
たのだろうか。数ある原因の

一つにその当時でもあった  
ファミッド型の社会序列に近づ  
くための大人達の押しつけた  
処世観があったように思いま  
す。

遊ぶことを奪われ、尾を垂  
れた子供達が果して心豊かな  
大人に成長するだろうか。風  
を腹一杯吸い大空を泳ぐ子供  
だけが大きくなる大人にな  
り得るのではないだろうか  
と思います。

鯉職の季節になるとつくづ  
くこのようなことを思いなが  
らポケ寸前の毎日を送ってい  
ます。

いづれあの世へ行ったら諸  
先生を尋ねてその当時の失礼  
を深くお詫びしお許しを得る  
つもりです。(中学33回)

俳句

薄 暑

野口奈美子

リラ冷えや曳き山八基引き揃へ  
螢狩り社へ続く石の橋

生姜糖提げて姉訪ふ薄暑かな

(県女34回)

ラジオ深夜便と「てんば」

北山 寛子

ラジオ深夜便土曜日「料理  
は心で」のお話をして下さっ  
ていた辰巳芳子様が、昨年三  
月最終回の折「くきたち」に  
ついて菜種のくきたちが美味  
しく蕾も食べておられると申  
されたのをお聞きしまして、  
小松の「くきたち」について  
次のようなお便りをしました。

私の祖母は「雪の下の菜は  
アクが抜けていて美味しい」  
と申して、春浅い頃「くきた  
ちいらんけねエ」と荷車に積  
んで売りに来たのを沢山買い  
込んで、大釜で茹でて四斗樽  
に塩漬けにしておりました。

翌年春迄の保存食となってい  
ました。食べる分だけ取り出  
し、水から茹でて塩だしし長  
い莖や葉は食べごろに切って、  
おだしとお醤油とナンバを入  
れて煮ました。夏の食欲の無  
い折はさっぱりして美味しゅう  
ございました。名づけて  
「てんば」とか「てんばけ」  
と申しており「そろそろ今夜  
あたり「てんばけ」作るか」  
と申していたようです。なぜ  
「くきたち」が「てんば」と  
呼ばれるのか分かりませんが、

小松の漬物屋さんには「てんば」と味付けされたのが売られています。「ごけ」とは大根や菜類を塩で軽く揉んで煮たものをさしましたようで、生の大根と葉を刻んで塩で揉み、茹で溢して味付けしたものを「ゆでごけ」と申ししていたようです。この投書を昨年四月半ばに放送して下さった宇田川アナウンサーは、

北山寛子さんが幼い時召し上がった「てんばごけ」のお話。面白い名前が夫々ついていてるんですね。しかし本当にこの季節になると一寸苦味のある食物を口にしたくなるというのは不思議ですね。と申されました。

東京の友人で放送を聞かれた方が、雪深い石川県の生活の知恵は素晴らしいと言われました。「くきたち」は万葉集に一首「くくち」とあり、茎の立つ青菜の総称と習いましたが小松の「くきたち」が古い時代の言葉のまま伝わっている事が誇らしく思われませんでした。

今年の白楊会関東支部総会の折、年輩の沖谷八重子様、福岡文子様らにお話してみたら、「アラ懐かしいこと

ば「てんばごけ」と言うことだよ。おいしかったね」と話が弾みましたけれど、平成年代の小松で今でも「くきたち」が栽培され「てんばごけ」を作って食べておられるでしょうかと、小松への思いを深くしている私です。(県女27回)

### 「みに、キネマ、加賀」 結成の歓び

永井 元子

私達は次の目的を掲げて発足した民主的な婦人組織の一人員であります。その目的とは(一)核戦争の危険から婦人と子供の生命を守ります。(二)憲法改悪に反対し軍国主義復活を阻止します。(三)生活の向上、婦人の権利と子供の幸せのために力を合わせます。(四)日本の独立と民主主義、婦人の解放をかちとります。(五)世界の婦人と手をつなぎ永遠の平和をうち立てます。以上五つの目標をもって運動しています。私達加賀地域におきましても微力ではありますが、政治、経済、教育、医療、福祉など多方面にわたってチェックしながら運動をしています。その一つの活動として取組んでいますのが、毎年八月の敗戦記念

日を中心として子供達に平和の心をもってもらいたいと言う願いから、地域地域におきまして平和をテーマにしたアニメを催して参りました。昨年の夏、来年は戦後五十年と言うこともあり、大人の方々にも今新たに戦争のない平和を心に深く刻んでもらいたいと思い、全国各地で上映され大変好評の「月光の夏」を取り上げることにしました。何

分にも小さい組織であるため、その大きな事業が可能か否か大変不安が多かった。それでも漕ぎ出した舟は進むしかない。何回も何回も会合を重ねいろいろな組織にも協力を働きかけ、ポスター貼り、チラシ配り、チケット販売に組織や知人に依頼に歩き力一杯努力しました。その甲斐あってと言うこともあるが、もう一つ経済一辺倒だった人の気持ち、こゝにきて何か本物を求めている人間性を模索していると言うことを、チケットを売りながら感じることが出来た。五百人収容の会場を土曜、日曜と二日間借りいよいよ当日を迎えることになり、役員一同緊張の面持で一人一人のお客様を丁寧にお迎えし

た。二時間半余りの上映時間であった。所どころにハンカチを目に当て、涙している方々も見かける。観客一同観終っても感激さめずじっと座席におられる方も多かった。小さい組織が千人余りの方々に観て頂き感激で一杯でした。観客の方々にアンケートもお願いした。その解答の多さに本当に感動した。その中にはよい企画をして頂いて感謝の気持ちで一杯です、これからもこの様な企画をお願い出来ないかと言う希望が沢山寄せられ、私達もずっと以前から本当に

いねと、話し合ってきたこともありこの機会につくろうと結論に達し、その運びとなり。そしてこゝに「みに、キネマ、加賀」と銘打って、よい映画をみる会が発足した。第一回記念映画を、全国各地で上映され好評の山田洋次監督、西田敏行・竹下景子主演の「学校」と決め、各自が前回のように取り組み頑張った。今回は会場も加賀市文化会館と大きな場所を選び、一層の努力を求められる。五月二七日いよいよ上映日となり、前日までに八百枚余りのチケット

トの売上げが確認され、当日新たな入場者もありほど成功したと自負している。後日委員会を開いている感想も出し合いたいと思っています。今回は九月頃「阿賀に生きる」を予定し予告も致しました。又観客の皆さんの意見も取り入れ乍ら、次回の映画を決めることも考えています。日本は敗戦後経済復興の名のもと、一に経済二に経済と全てがお金と言う世の中になり、その弊害が今ふき出ていると云った感じがしてならない。

今年は映画が日本に入ってきて百年と聞く。映画産業が衰退して幾久しい。私達の運動が映画の復興と、よい映画を観ると言うことを通して、人間性の回復が出来れば本当に幸せだと思えます。

「みに、キネマ、加賀」の会が益々大きくなることを願っています。(県女33回)

### 高光先生の思い出

手取屋節路

前田藩に仕えて「勝路」という名前をもらった曾祖母にあやかって父は節分の節と勝路の路をとって「節路」と名をつけたとの事。なんとよ

むのですか。ペンネームですか。子供の頃はこれがいやでいつもひらがなで名前を書いたりしていましたが、今にして思えば二つとない名前をつけた親に感謝しています。

さて、終戦と共に学校を卒業した私は洋裁学校へと進み卒業後洋裁教師となりこの道四十年、現在は金沢の中日文センターの講師を務めて二十余年になります。その間、余暇を利用して日曜画家の会である「チャーチル会」に入っていた頃の思い出を述べたいと思います。

会の客員であられた故高光一也先生にこんな依頼をされました。「貴女に頼みがある。モデルのコスチュームを作ってほしい。ファッションドレスは巷に氾濫しているがそんなものは絵にならぬ。素材を生かして陰影に富んだ美しさを表現したい。貴女だったら絵心があるから私の気持ちを理解できるだろうからよろしく」と。大先生のお役に立つ事ならばと快く引き受け、早速北間の自宅へ。誰もが入れないアトリエへ。足の踏み場がない位の画材道具。モチーフはピアノ掛けのレ-

ス、特別染の生地などいろいろ。とにかくまくすからとの事。人物画のモデルは一米七十以上が先生の好み。神経を使って製作――。

先生出来上がりしました！どうでしょうか。返答は「ああいいがなった。ありがとう、ありがとう。」早速製作に「かからなん」と金沢言葉で。そして私に死ぬまで「たのむね」と。何と光栄な事だったでしょう。今は先生の遺作を見るたびに、あの時一生懸命作ったコスチュームと在りし日の先生のお姿が思い起こされます。(市女18回)



教育雑感

山本 穆子

天守台上登って、白山連峰や、梯川をスケッチしたクラブの時間。あれから早くも四

十数年の日が過ぎました。この春、四十年の教職生活に別れをつけ、現在は郷土が誇りとすべき、宮本三郎画伯の美術館で、好きな絵に囲まれて、仕事をしています。

教育審議会は、新しい方針として、個性の尊重をうち出している現在ですが、個性がそう簡単に出るものではないということ強く思うこの頃です。

宮本三郎画伯の一日百枚のデッサンをなんと十年。パンの耳をかじり、残り物のうどんを洗って食された、若き日の貧困と苦勞の中での基礎があったることなのです。

豊かさ、甘さ、だけの生活は、産みの苦しみを知らないのと同様に、期待される人は育たないと思います。

小松高校に入ることが、終着駅のように思っている人がいるとしたら、私共の先輩諸氏に申し訳がないと思っしてほしいと思うのは、私だけでしょうか。

「教育の機会均等とは能力のある人にも、その機会を与えることであり、それが人材を育て、やがて、社会を担って行く」と申します。オウム

の事件が、マスコミを独占するようになって、ハッとさせられる思いです。

それぞれの目的にあう機会と条件を造ることが、我々大人にかせられた責務であり、それを自らの力で選ぶことが、若者の若者たるどころだと思えます。

四十年間の教職生活の歩みを、これでよかったのかと反省しつつ、母校の発展を祈る一人です。(高校5回)

クライアントの永続を願って

田村 俊丈

昭和四十五年に大手化学メーカーを退職し、税理士となって今年で満二十五年を迎えた。私共の業務で最も重要なことは、クライアント企業が一人も倒産すること無く、繁栄し続けるために、適切な助言を差し上げることである。近年の政治、経済、社会の変化の激しさは、一企業では対処し難いものとなっている。

製造業にあつては、生産拠点の集約化や海外移転、流通業にあつては外国資本の上陸や安売りの「価格破壊」が進行中である。

この厳しい経営環境の中で企業を倒産させない為にはどうしたらよいか。

その防止策を十ヶ条にまとめてみた。

- 一、人の言に左右されず自身自身の確固たる信念を持つ。
- 二、必ず目標を設定する。
- 三、誠意をつくす。
- 四、名参謀(相談者)を持つ。
- 五、手と足を使い「等兵になつたつもりでやる。
- 六、欲に惑わされない。
- 七、絶対に病気をしない。
- 八、最新情報に敏感となる。
- 九、見栄と思い上がりを捨てる。
- 十、不満をなくし奉仕の精神を持つ。

経営者は、企業の存続により社会に貢献しており、その経営者を支えることが私の仕事であり喜びである。今後更に研鑽を積まなければと思う二十五年の区切りである。(高校11回)



### 人生の「内申書」

広井 厚子

飼っていた犬が死んだ。小学校二年の頃だった。物心がついて初めて遭遇した「死」の衝撃だった。——大きくならたら犬のお医者さんになろう……！——

よくある実に単純な発想だが、あれから三十年余。道は決して平坦ではなかった。

犬に噛まれ猫にひっ掻かれ生傷が絶えなかった開業当時。結婚、出産と大きく変化する私生活の中で、重病重症の犬猫たちは、朝夕問わず連れてくる——無我夢中でやるしかなかった。

現在、娘たちは七才と十才。振り返るにはまだまだ早いですが、それでもよくやってきたと自分で自分を励まし慰める。

だが——と、最近になって思うことがあった。主婦としての、あるいは母親としての立場、責任を「仕事」の名目ですら分犠牲にしてきたのではないか……？ そういう意味で主婦も母親も平均点以下である。ならば仕事はというと、こちらはまだ未熟でやはり、平均点以下である。

つまりは、みな中途半端な気がしてジレンマに落ち入っていたのである。

そんなある日、母の日だった。「お母さん、ありがとう」の子供たちからのメッセージ。夫も口にごそ出さないが花束で労をねぎらってくれる。退院していく犬や猫の飼い主も「ありがとう」と満面に笑みを浮かべて言ってくれる。

平均点以下の点数に、子供や夫、動物たちがプラスαをつけてくれたような気がして心に何ともいえない満足が広がる。

それはどこか——成績に追いかけてられていた松高時代と今も殆ど変わらぬ生活を送っているような気がするが——先生方の恩情に助けられた「内申書」にも似ているような気がしているのである。

(高校24回)

### 21世紀を間近に迎えて

樋口 淳

二度目と、とんでもない卒業生です。ただ自分の為に生きられない人より幾数倍楽しい人生を送っているのだと思います。

夏目漱石は「私の個人主義」の中で、科学者、芸術家以外の仕事は他人の為にすることを言っています。この言葉を聞くと、普通の仕事がつまらなくても納得がゆきます。おもしろい訳がない、自己の為にしていないのだから。他人の為に自分の糧となるのです。

日本人は特に「和」を重んじますから、個人主義と言うと利己主義と思われませんが、決してそうではないのです。戦前はお国の為に、今は会社の為にと言いますが、本当のところ、自己や家族の為に働いているのが現実です。いつも、会社の事を考えて暮らしてはいないと思います。

生まれてから今日迄、社会は順調に進展して来たが、近頃、どうも様子が少し変わりはじめている。昨日迄正しいと思っていた事が間違っているのです。正しいのではなくて儀礼的に通過していただけなのだと思えます。様々な価値

感が大きく変わる真只中に身を置いていたような感じですが。私の世代は物心がつく頃より、物質的には豊かで、既成の社会、組織に埋没してきた。三無主義、ブランド志向とか、こういう言葉がびったりくる世代です。戦前の人々のように価値感が大きく変わる時代を過ごしたことはありません。

21世紀はどのような時代かなあ。何か画期的な発明があるのだろうか。私は、個人主義で、何をできる人か、何が正しいかを見極めてゆきたい。

(高校29回)

### 村井君高校選抜ポートV

本校3年生の村井晋平君が3月、静岡県得天竜市漕艇場で行われた、全国高校選抜ポート大会男子シングルスカルで見事優勝の偉業を成し遂げました。

村井選手は18センチ、77キロの恵まれた体と持ち前の勝負度胸を生かし、決勝では激しいデッドヒートの末栄冠を手中にしました。勝利の要因は本人の不断の努力は勿論のことですが、幼い頃よりポートに親しむきっかけとなった父親の富雄さん(高校18回、

同志社大時代にメキシコ五輪に出場)と兄の啓介さん(高校44回、中央大学で活躍中)の2人のポート部「先輩」の存在も非常に大きいものがあるのではないのでしょうか。

5月 の世界ジュニア代表選考会(埼玉県)では惜しくも代表の選にもれませんが、6月の県高校総体では他を寄せつけず圧倒、インターハイ(8月3日から7日まで鳥取県米子市で開催)への出場権を手に入れました。今後ますます活躍が期待されます。以下は村井君との一問一答。



力漕する村井君

Q はじめてポートに乗ったのは？  
A 小学校2年生の夏、父親が参加した小松市市民レガッタの時です。

Q レースの前はどんな事を考えますか？



A 負けたあとの事は考えず  
に、とにかく自分の力を全  
部出せばいいなと考えて  
います。

Q 今までで一番印象深いレ  
スは何？

A やっぱり3月の高校選抜  
大会の優勝です。

Q 今後の目標は？

A インターハイでの優勝。  
大学進学後もボートを続け  
ていきたいです。

Q ボートの魅力とは？

A レースで勝つことも嬉し  
いけれど、練習中でもレ  
ス中でも「ああ、今うまく  
漕がってるな」と自分で感じ  
る時があります。そんな時  
はコーチの方も誉めてくれ  
るんです。水の上を滑るよ  
うに進めた時が一番ボート  
をやっているとよかったです。  
思います。

**小松同窓会新年会**

平成6年度小松同窓会新年

会は1月27日午後6時半より、  
小松市本折町、小松グランド  
ホテルで開催されました。

当日は、「曇り時々雪」と  
の予報も見事に外れ、穏やか  
な空模様で、会員・教職員199  
名が久しぶりに旧交を温めま

した。  
会は大滝幸夫氏（高校21回）  
の司会で、阪神大震災の犠牲  
者に対する黙とうで始まり、

仲井信雄  
会長、清

水郁夫校  
長の挨拶

のあと、

亀田作雄  
氏（中学  
22回）の

「乾杯」

で開宴し  
和やかに  
懇親を深めました。時間は瞬  
く間に8時30分となり、名残  
りは尽きませんでした。四  
校の校歌を合唱し、松崎茂夫  
氏（中学24回）の発声で万歳  
を三唱し散会しました。



当日は、会場に阪神大震災  
被災地の関西小松同窓会員の  
方々への義援金募金箱も設置  
され、多くの善意が寄せられ  
ました。

**10年間の合格状況**

	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
東京都立大	1		2	3	2	3	2	2		2
横浜市大	2	3		1	1	1	1	1	4	2
金沢工大	5	3	4	1	2	4	4	2		1
京都府大	3	3		1	3	2		2	1	2
大阪府大	1	2	2	2	2	2	2	3	1	2
大阪府大	2	2	1	7	4	3	2	5	2	
神戸市外大	1	5	1	2	1	1	1	2	1	2
その他	13	14	16	14	12	13	17	18	16	24
公立大合計	28	32	26	31	27	29	29	35	25	35
	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
早稲田大	11	20	15	20	17	15	16	21	12	24
慶応大	7	18	6	12	7	10	2	12	14	17
明治大	17	22	20	18	20	14	15	12	17	9
立教大	3	9	7	10	8	5	2	2	6	3
法政大	7	13	13	15	22	19	15	19	9	9
中央大	9	17	11	13	13	10	14	10	10	7
日本大	20	19	12	9	20	25	20	22	25	12
青山学院大	7	8	4	7	14	6	9	9	4	7
東京理科大	13	18	11	25	15	16	7	18	11	16
上智大	3	8	6	2	5	3		4	3	5
同志社大	17	18	16	18	27	25	23	28	35	24
立命館大	21	55	30	31	39	31	27	40	60	36
関西学院大	5	7	6	7	7	6	15	15	20	11
関西大	18	16	12	8	19	31	21	41	23	26
京都女大	17	11	7	7	7	7	10	8	4	5
同志社女大	3	3	5	4	4	3	8	3	4	9
その他	131	201	155	214	200	256	354	300	320	297
私立大合計	309	463	336	420	444	482	558	564	577	517

	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
北海道大	4	6	5	8	3	4	6	3	6	2
東北大	5	12	6	8	4	9	11	10	10	8
筑波大	4	7	1	7	8	6		2	4	6
千葉大	2	5	4	5	6	7	7	9	3	5
東京大	2	2	3	3	2	2	4	3	7	2
東京外大	3		2			1		2	1	1
東京工大		2	2	3	2		2	2		1
お茶水大	2	1	2	2		1	2	1		2
一橋大	3	3	2	1		1	1	2	2	1
横浜国大	5	4	6	9	7	6	5	3	3	3
新潟大	3	11	3	7	9	6	6	3	5	5
富山大	27	59	39	66	76	43	34	30	33	23
富山医薬大	1	13	7	7	2	2	1	5	2	3
金沢大	92	95	74	93	80	60	70	62	71	47
福井大	15	10	13	15	6	10	8	7	3	5
福井医薬大	2	1	1			1	1			1
信州大	3	6	10	15	14	8	9	9	12	11
静岡大	3	9	10	14	8	12	13	7	6	11
名古屋大	2	5	2	7	4	4	7	7	6	7
名古屋工大	1	5	1	4	1	1	3	4	4	4
滋賀大	3	7		2		4	6		3	3
京都大	4	5	3	4	7	14	7	6	7	5
大阪大	1	8	4	7	5	7	8	11	7	7
大阪外大		2	5	4	4	3	2	3	2	3
神戸大	2	6	3	4	9	4	9	6	13	5
広島大	2	3	1	4	3	1	2		7	1
その他	17	27	44	52	23	48	56	35	29	47
国立大合計	208	314	253	351	283	265	280	232	246	219

**進路課より**

18才人口は平成4年をピークに減少期に入っているが、現役生の大学志願率は増加傾向が続く平成7年には54%になる。男子が1.6ポイント増加に対し女子は8.3ポイントも増加している。進学率においては平成2年度に男女が逆転して以来女子が男子を上回る状況にある。本校においても女子の増加が続き、現3年の普通科では女子の数が男子より多い。女子の高学歴志向は今後も続くであろうが、進学動機が教養を高めたり事務能力を取得することから、専門知識を身につけたり資格を取得することへと変化している。社会状況の厳しさをよく考えてしっかりした目的をもって進学して欲しいものである。今春の合格状況は表の通りであるが合格数の減少が目立つ。この原因をしっかりと分析して今後の進路指導に役立てていきたい。自己の志望進路の決定・実現は決して短期間で出来るものではない。特に今は進学環境が激しく変化している。進路資料室を利用するなど正確な知識を得て早目

に明確な目標をもつことが必要である。

### 修学旅行余聞

小松高校の修学旅行(2年生)は平成4年度からは北海道(道南)方面へ3泊4日の日程で実施しています。バスによる団体名所観光に加え、生徒が特に楽しみにしているのは、札幌・小樽班別自主研修(予めプラン立案・丸一日)です。本年度の修学旅行は6月7日~10日に実施し、無事終了しました。

生徒は旅行出発の集合地の小松空港まで、家族のマイカー、バス、タクシー相乗り等で集合しますが、今回は、五、六



「いただきます!」

登別(2日目)の朝食

名の生徒が自転車に旅行鞆を積んで空港にやって来ました。駐輪場を探しても見当たらないので、引率教諭に申し出、引率教諭がカウンターで尋ねると、小松空港に駐輪場は設置されていないとの返事。学年主任の金田清教諭(高校19回)が奔走し、結局、駐車場の一角に駐輪させてもらうことで一件落着きました。

空港係員によれば、修学旅行に自転車で乗りつけたのは今回の小松高校生が初めてのことでした。小松高校、未だに豪傑健在と言ったところでしょうか。

### 金沢支部総会開催

平成七年六月二三日夕方七時、香林坊の金沢東急ホテルで、二年毎の「定期総会」が開催された。来賓に同窓会会長仲井信雄氏、校長清水郁夫氏の臨席を仰ぎ、国政に繁忙極まる中、東京より島崎謙代議士(中学39回)も参加され、総勢一九四名出席の総会となった。直前支部長伊藤清雄氏に十年間に及ぶ御苦勞を謝し、新支部長吉田耕介氏より記念品が贈呈された。総会に先立って夕方六時より同一会場で

「歌の夕べ」が催され、高校音楽の恩師尾坂薫元先生も御出席の下御息女の尾坂尚子(高校12回)、洋子(高校18回)の両声楽家の本格ソロピアノを愉しんだ。歌劇「蝶々夫人」中の「或る晴れた日に」をマイク等の音響装置一切なしで身近にサロン風の生で鑑賞し深く感銘した。最後の「愉しいパーティー」後半で

中学・卓女・高校の各校歌を各自全員壇上に昇りピアノ伴奏入りで合唱した。最後に出席者全員の健勝と同窓会益々の発展を期し、任田秀雄氏の御発声で万歳三唱し散会した。夜九時半。(高校7回中修司記)

### 探しています

小松高校新聞の次の号を探しています。お持ちの方はしばらくお貸し下さい。コピーを取らせていただき速やかにお返し致します。

- 第65号(昭和36年春発行)
  - 第72号(昭和37年5月) 11月発行
  - 第73号(同右)
  - 第113号(昭和45年8月) 11月発行
  - 第114号(同右)
- 以上何れも発行日は不明です。

心当たりがおありの方は、同窓会本部までご連絡下さい。

◇ ◇ ◇  
小松高等学校百年史刊行(平成11年)に向けて、旧制中学、高女、市女、高校(特に昭和20年代、30年代)の学校生活(授業風景、クラス写真、クラブ活動、各種大会、行事等)の写真をお貸し下さい。複写の上お返し致します。よろしくご協力の程。

### 本部だより

◇小松同窓会報「天守台」第10号をお届けします。第1号の発行は平成3年1月18日でした。その間、多数の方に投稿を戴き、また原稿依頼にも快く応じて戴きました。厚くお礼申し上げます。

編集委員一同、ますますよい紙面作りに努めます。よろしくご協力下さい。

現在で把握している会員数は次のとおりです(物故者除く)。

- 中学――一、六四九名(内不明者 一一八名)
- 高女――二、二五八名(一四二) 市女――九一一名(四二二)
- 高校――一、四九四名(六一六) 尚、会員の住所、苗字等の変更は同窓会本部までご一報下さい。会員が亡くなられた場合は、ご家族、ご友人の方よりのご連絡をお待ちします。
- ◇平成7年度同窓会事務局のメンバーは私達4名になりました。ご要望、アドバイス等お気軽にお寄せ下さい。お待ちしております。

### 第11号の原稿募集

- メット 平成7年11月30日
  - 内容 自由(在学中の思い出、近況、趣味、紀行文、俳句、短歌等)
  - 長さ 六百字程度
  - 発行 平成8年1月
- 尚、できるだけ多くの方に登場して戴くため、原稿の長さ(六百字程度)、をお守り下さい。原稿は早目にお送り下さい。